シェアにのみや（ラディアン展示ギャラリー）2017 年 11 月 12 日(日)

【決算報告についての質疑応答】

(参加者)　消防の指令業務は今年からか。広域化の体制が他の自治体に比べてちょっと遅い。気が合わない人がいて、人事交流がないままでいると、署に居ずらいということがあるので議会がどこまで行政に対して意見を言うかわからないが、人事を含めて議会からも意見をいったらよいと思う。

(参加者)　実際にこのような決算審査意見を出したら町は具体的に動いているのか。議会では、できたかできていないのかの評価をしているのか？
⇒(決算委員長)　出した審査意見がどうなったかという結果は、毎年議会だよりでをお知らせをしている。町は審査意見に対しては重きを置いているので、袖が浦プールも議会の意見があったので閉めた経緯がある。
⇒(議員)　審査意見でプールのことを出したときは、すぐ閉鎖せよと言ったのではなく、利用者が増えるような工夫をして、それでもだめなら閉鎖を検討するようにというものだったので、審査意見がすんなり、そのまま実現したかといえばそうでもないこともある。
⇒(決算委員長)　私たちの審査意見が町の施策を後押ししたということはある。12 月には袖が浦プールに関して議員提出の意見が出される。

(参加者)　審査意見の何％ぐらい実現されたとか、具体的に報告があっても良い。こういう時にも反省や評価を報告してほしい。

(参加者)　一時収入が 4 億円以上あった。二宮はなんでもお金がない、という話になるので、積み立てをするのではなく使った方がいいのでは。
⇒(決算委員長)　その件は本会議において補正予算で議論された。修正申告があると還付金が生じるため、5 年間は置いておきたいということになった。いつ還付があるのかわからないためやむを得ずの結論とした。

(参加者)　ワクチンは毎年打たないと効果がない。1 回目は国の補助ありで、いかにもやっていると宣伝するのはどうなのか。

（参加者）　国保は来年から県の運営となる。保険料の負担が増えるのであれば早めに広報してほしい。町民に不利益となることは早めにお願いしたい。

(参加者)　決算審査意見意見の１～８まで改めて説明をもらうと、特に消防の実態については驚く。5 番の学校のホームページについては何がネックなのか？
⇒(決算委員長)　知恵と工夫でできるはずなので、やってほしいと言っている。コミュニティスクールで作るとか、子どもたちが作って更新するなど、やり方はいろいろあるはず。

（参加者）　審査意見の７番。職員の働き方についてだが、具体的提案はあるのか。
⇒（決算委員長）　例えば税務課も夜中まで仕事をしているので臨時をあてられないのかなどを提案している。
（参加者）　長時間労働がなぜか、というのを議員がきいたりしたらどうか。ストレスチェックは当たり前。具体的提案が議員からされていないと感じる。
⇒（決算委員長）　頑張ります。
（参加者）　職員の話。残業の 20 時間は少ない。正確な勤務実態をつけてもらうことで初めて知るわけであり、そこから何をするかだ。時期による波もあると思うが、今はアブノーマルだということを知ることからだ。

（参加者）　公共施設に関しては、ワークショップとかをやっているようだが、情報発信が下手だ。役場を知る人しか、知りたい情報にたどりつけないのが致命的。
⇒（決算委員長）　ホームページの情報が見づらい、探しづらいというのは課題だと思っている。ツイッターと Facebook も連動しているのに活用しきれていないというのがあるので工夫する。

「図書館について」
（司会）　図書館を町民のニーズに沿って変えていきたい。以前は満足度は非常に高かったが、今のままで良いのか、それとも変えたほうが良いのか。資料を配ったのは、世の中に多種多様に図書館があるという例である。町に適用できる要素があるのか、24 時間対応、交流ができること、マンガがあるなど、ネットから適当に選んだ。例えば慶応大学の図書館に行った時、半分はグループワークできて、半分は静かな図書館としていた。住民のニーズをとらえているのもある。ＢＧＭをかけていたり、お正月に開館していたり。今回は町民ニーズに合わせて、図書館を変えていけることができればと思って企画をした。必要であれば町への提言につなげたい。まずはどのようなところが「図書館の良いところ」なのか、ご意見いただければ。

（参加者）　まだまだ町は遅れている。休館日は 88 日らしい。町民センターは４日間しか休んでいない。同じ町の施設でなぜこんなに違うのか。みなさんにたくさん使ってもらうのが筋。年末年始が８連休。理解できない。館内整理日も多い。本を整理するなら２階を活用するなど。本は貸し出しできなくてもここで読むなど。エリアを分割しながらできるのではないか。工夫が足りない。朝の９時半に開館するのは遅い。定年した人など朝から来たい。朝に覗いても何もしていない職員。来た時間からオープンしても支障ないのではないか。

（司会）　開館時間、整理日等々については議会でも質疑があった。

（参加者）　開館についてだが、ラディアンが休みだと図書館が開かない。冷暖房も使う。ラディアンは全部集まるところとして機能しているため、図書館への制約がある。神奈川県内で開館日は一番少ない。もうひとつの問題は、書庫が満杯になっていること。寄付も受け取らない。書庫はどうするなども議員は考えて欲しい。ラディアンの予算がしっかり発表されない。開館日は少ないけど県内の入場者は多い。

（司会）　本を借りた人の延べ人数はあるが、実質の利用人数が数として出ていない。

（参加者）　１年間で１回だけ使った町民は 8300 人。利用者としてはいるのではないか。

（司会）　延べだと 9200 人だし、集計のしかたは違うのもがある。絶対数としては 8200 人となる計算。延べの数字で言えば有効な施設。

（参加者）　さまざまな分野の本が揃っているのが良い所。健康・環境・歴史などなど。それぞれに。地域の特性などふまえながら図書館がある。月々に買えるものはあるが、資料費の限界もある。読み聞かせの活動をしていて本を選びに来るが、明日読みたいという本がない、資料費が減る影響はそういうところにある。書架に並んでいるから本との出会いがある。館内整理日も必要。人の配置は必要。

（司会）　図書館年報にはジャンル別にも載っている。整理日が必要なのは、特に子どもの本のため。

（参加者）　今、配布された資料にある図書館と二宮町の図書館とは財政規模が違う。二宮は中核。大磯も優れているが駐車場は少ない。歩いて、自転車で、誰でも使いやすくあるべきという施設の性格も大事。予算規模からしても、基本的なものを更新することにお金をとられている。防災、高齢化などを司書は考えている。資料費等はどんどん減っている。予算を知っている身からするとあれもこれもは言えないが、本当はもっと欲しい。書庫の問題ともつながる。

（司会）　本を選ぶリストからしか本を買わないのでは。

（参加者）　購入の工夫はできないのかという提案もしている。アマゾンでは手間がかかる。寄付の提案など。予算が少ない。買う工夫をしろ、と。

（参加者）　寄付はすんなりいただきますというわけにもいかない。使われなくなった古い全集とか。

（参加者）　私は松田町に住んでいるが、松田は図書館法の図書館ではない。いつも悩んでいる。でも同じ悩みがあるのがわかった。これからの方向性としては、無料貸本屋という意見もおきていて、図書館の意義をどう考えるか。知る権利を保障することを守らなきゃいけない。基本と書を守ることで精いっぱい。自治会館で得意分野をつくればよいのでは。どういう図書館を目指すのか、自分たちがどういう図書館を持ちたいのか、最低限、守りたいことを出さないと、いつまでも予算が足りないという議論になる。課題解決型というのも言われている。

（参加者）　１回も借りられていない本はほとんどない。選書がよい。地道にやってくれている。廃棄してしまうことにも問題がある。

（参加者）　予算が減るから本を買わないのではない。平均単価が下がるだけ。つじつま合わせをする。二宮も平均単価が減っている。もうひとつ。予算に対してどんな還元率になるか考えるべき。還元率は良くなっている。費用対効果は二宮はけして悪くない。一般会計の図書館経費で、本の単価と、どのような利用頻度なのか等が出る計算式がある。二宮町でも出している。

（議員）　百合が丘から歩いて図書館に行って、スポーツ新聞を読むというのも、健康のためのきっかけづくり。

（司会）　改善点はあるか？

（参加者）　書庫の問題。電子図書も安くなっている。町民力・ボランティアをもっと使うのも良いと思う。

【図書館の発表】
図書館を楽しむ会の方の参加が多かった。開館日は県内で一番少なく、予算が足りずに不備が生じている。また地下の書庫はすでに満杯、学校の部屋を使うなど、町全体で考えるべき。ラディアンは複合施設なので、開館日増には課題があるが、開けながら整理できるのではという意見も。町民ボランティアを募ったり、広域、連携強化で、それぞれがジャンル別に充実させるなども有意義。

【自主防災について】

（司会）自主防災に参加しているか。
（参加者）　ほとんど参加している。町内会では災害時情報収集が大切であると考え、５年ほど前に予算化し、太陽光パネルを公会堂に設置した。メンテ役をしている。バッテリー2 個で昼間は蓄電、テレビが半日ほど見れる程度。

（参加者）　停電を想定すると確かに避難場所には設置したい。

（参加者）　今回は二宮の議会報告会で「自主防災」テーマがあったので参加した。小田原市民（中村原）である。10 月に全市一斉に連合自治会単位で防災訓練があり参加した。（26 か所）やはり自治会長、役員が多い。いざ発災した場合の避難は二宮となると感じている。自衛隊は 1 週間でも来れないだろうし、その間インフラを小田原市には頼れないと感じている。二宮にはロピア、西友、ビッグ、クリエイト等いざという時にも物資が揃っている。

（司会）自主防災に思うことは。

（参加者）消防広域化同様、防災は広域化する必要がある。生活圏で助け合うことが大切（石神台、虫窪、橘団地は生活圏は二宮）水が確保できていないと感じ、心配で不安。各家庭用意しているか、自治体在庫で間に合うか、井戸を掘れば活用できるのではないか、遊水地を掘りポンプで普段から汲んでいれば飲み水にも使用できるのではないか、昔は田んぼも多かった。

（議員）富士見が丘は山に囲まれて、水（沼）があった。

（参加者）二宮は地盤が良いから家屋が崩れなかったのでは。

（議員）場所によっては悪い地域有り、消防署一帯は比較的悪い。

（参加者）震度５強もあった。

（議員）以前、井戸の調査を行ったことがあり、元町妙見にも井戸が２つあったが、全く使われておらず不可であった。

（議員）実のある防災訓練はどうしたらよいか気になる。

（参加者）盆踊りや祭りでも顔を合わさず、隣近所を知らない人がいるのではないか、人の顔が見えないのは良くない。回覧板はブロック（20 世帯前後）ごとに回しているが。

（議員）阪神淡路大地震では死者ゼロの町があったが、寝ている場所まで知っているほど地域の人々の関係は深かった。

（参加者）地域で顔見知りになることがまずは防災、いるかいないか、大丈夫か否か、普段からの付き合いが何よりも大切だ。そのきっかけを作るのが自主防災訓練ではないか。地区の清掃活動などは今はしていないし。

（参加者）小田原全市一斉訓練のなか、私の地区では小学生と保護者を対象に、調理室を借りて炊き出しを行い、防災食をつくって食べた。270 名いる児童のうち、30 人程度の子どもに加え、保護者が参加し調理し食した。全体でやるのは大変だが、毎年対象を変えてこのような取り組みを実施するのも良いのではないか。

（議員）地区防災も役員や一部興味のある方しか参加していないのが気になる。

（参加者）防災マップの作りかたも考えた方が良い。煽るだけにならないように。

（司会）町への要望は。

（参加者）防災マップは当たり障りないものとなっており、いざ災害となってもどこに行ってよいか分からないのではないか、災害の大きさにより動きは変わる。

（参加者）実際どう動くか？公園で寝泊まりすることもあるだろうし、指定外避難所に行くこともあるだろう。どのくらいそこで耐えなければならないか。そこを町は考えておく必要がある。例えば、東大果樹園跡地にテント張る必要があるのか。車で寝泊まりする家族もあるだろうし、ある程度想定しておくことが必要。災害の大きさによって避難の仕方、場所も変わるだろう。

（参加者）消防、自衛隊・・・すぐ来てくれるだろうと住民は思ってしまっているが、災害は広域に起こるので期待はできない。自助、共助までだろう。

（参加者）水、食、排便、睡眠・・・まずはそこを整える必要がある。

（議員）学校体育館で１泊訓練を実施する自治体もある。検討必要。

【自主防災の発表】
１．情報収集は大切（町内会に太陽光パネルを設置し、発電、蓄電しては）
２．水の確保が心配（井戸水利用を検討できないか）
３．防災は各地区だけでは無理であり、生活圏、広域で計画、実施が必要。
４．日ごろから隣同士、近所付き合いが基本。
５．災害規模によりどう避難すべきか、公助はないという前提のシミュレーションが必要。

シェアにのみや（そしん）2017 年 11 月 18（土）

【決算報告についての質疑応答】

（参加者）決算審査意見は、その後の結果が大切、時間をかけて説明して欲しい。

（決算審査委員長）今回は 9 月議会の審査で意見を提出したもので、平成 30 年度予算に優先的に反映させることが目的であり、結果はこれからとなる。

（参加者）自主防災の手引き書が作成されたとのことだが、自主防災組織は既にあるが。

（決算審査委員長）各地区の自主防災組織へ「手引き」について説明に伺い、今年度中には公開したいとのこと。全地区に組織はあるが、この手引きにより、最低限の活動を促すものの目安となる。

（参加者）普段、地区の行事に参加できない者としては、ホームページか配布物でしか見ることができない。手引きのようなものは早く公開していただければ、意見も言える。改善もできる。

（参加者）各学校のホームページは誰が作るのか。先生を新たに雇うのか、残業させるのか。どう考えるか。

（決算審査委員長）地域の方々と子どもたちが共同で参画するのが良いと思う。先生に任せるのは厳しい。

（参加者）公共施設再配置ワークショップへの参加者が最終的には少ないとの話だが、以前そのような会に参加した時「ご意見伺います」で終わってしまうのではないかと思った。今はどのような感じなのか。

（決算審査委員長）今回はプロのコンサルタント会社が入っており、意見は公にされる。その意見を執行者側が反映するか否かが問題。一つひとつ議会でもチェックしていくが、そのような意見を発信し続けて欲しい。

（参加者）決算審査意見の全体のレベル合わせができていない。具体的提案になっていない審査意見もあるが、議会はどこまで言えるのか。

（決算審査委員長）決算審査特別委員会の中では細かく意見を出しているが、表現としては幅広くなってしまう。傍聴にも来てほしい。

（参加者）図書館については、人件費等の経費削減を以前言っていたと思う。開館日、時間を増やすことは経費も増えることとなる。その辺についてはどのように考えているのか。

（決算審査委員長）曜日ごとによる開館時間を変更するなどの工夫も大切。開館日を増やすと経費が増える。しかし、二宮町の図書館の開館日数は県内で一番少ないのも事実であり、経費を掛けずに町民サービスの向上を考える工夫は大切である。

（参加者）開館日、時間を増やすこともあるが、貸出冊数を増やして欲しい。

（決算審査委員長）町民のニーズはさまざまあるので、一つひとつの要望に沿った改革を求めていきたい。

（参加者）広報にのみやにも決算報告が載っていて、仮に家庭での支出比率を表していたがまったく意味がなく、無駄だと思う。それよりどこでどんな工事をしたか、民生費で何をしたか具体的にあると分かりやすいし、それを知りたい。

（決算審査委員長）町に提案する。

【意見交換会　高齢者福祉Ａチーム】

（参加者）葬祭費用委託料を支出したとのことだが、何歳の方か。町は 75 歳以上の方を吸い上げ民生委員へ伝える。医療情報シートもあり、必要な家庭に対しては追加登録をしている。年齢に関係なく一人暮らし、独居老人の方なども把握しておいた方が良いと思うが如何か。

（議員）75 歳以上の方の情報はあるが、それ以下の方は何も知らないでは民生委員としてはつらいのは理解する。

（参加者）75 歳以上の方に対して民生委員さんは何をしているのか。

（参加者）登録者訪問のほか、新聞等ポストの郵便物の量や雨戸の開閉状況なども見ている。

（参加者）町内に独居老人は何人いるのか。

（参加者）釜野では日中に独居の方も含めると約１割いる。

（議員）町全体としてどの位いるか把握できておらず申し訳ない。

（参加者）医療情報シート登録者は重度障害者も含めると 860 世帯ほどだが、プライバシー、守秘義務、個人情報等々により情報が入らないのが問題。残すは地域のつながりしかないのではないか。

（議員）どこにも所属していない人より、ゆめクラブに所属されているかたの方が情報量は

はるかに多く、いろいろなことを知っている。集うことにより情報も多く入るので、勧誘して会員を増やすこともセーフティーネットにつながる。

（参加者）釜野地区では毎月地区長会でも時間をいただき、メンバー増を目指し、説明、お願いをしているが、残念ながら現在は 63 名と減少してしまっている。

（参加者）茶屋から聞いた話だが、奥さんが倒れて入院、その後夫も倒れてしまい、地区長が病院へ付添いしたとのこと。犬もいたらしい。一人暮らし、重度障害など、年齢に関係なく自主的に地区への登録をしておくのが大切であり、促す必要があると思う。

（参加者）二人住まいの高齢者世帯は登録をさせた方が良い。民生委員や地区との情報共有は個人情報保護より重い。また、災害時に黄色いタオル出すが、防災訓練では出ていない家に声を掛けて応答を地区へ報告をするようにしたため、30 分で全世帯の安否を把握することができた。

（参加者）高齢で二人とも動けない家庭は各地区にいるはず。冷蔵庫に緊急連絡先が書いてあるとか、医療情報シートに記録されているとか、町内全体で徹底させることはできないのか。

（参加者）地区ではチラシ等を配布し、地区や民生委員にも連絡するよう言っている。

（参加者）緊急連絡先を書かせると良いと思う。

（参加者）町としてはできていないが、地区としては家族構成を把握しておきたい。組長に作成をお願いし、各家庭で記入してもらった。緊急連絡先も記載してある。組長は地域をよく見て回ってもらうようにお願いしている。

（参加者）百合が丘で組長をしていたときに、自治会で各家庭の名簿を作ったこともある。

（参加者）町内会、自治会に入っている人はまだ良いが、入っていないかたが 60 世帯、釜野地区の約１割。そのかたたちはよく分からず困っている。

（議員）高齢者福祉と防災はリンクしている。防災面から高齢者を把握するやり方も大切なことだと思う。

（参加者）町内会、自治会に入っていない人をどうするかが一番の問題。

（参加者）役場でもＰＲしていると思う。

（参加者）地区へ何も連絡しないまま転居され、空き家となるのが困る。環境が良くなくなるが、町内ボラで対応したときもある。釜野には空き家が 25 軒あり、うちすごいのが３軒

あるが手を付けるなと怒る人もいて、どうしたらよいか困っている。

（参加者）空き家対策は根本的に考えて欲しいし、こちらも意見を出さなければいけないと思う。

（議員）各地区の対策を聞かせてもらった。高齢者福祉は防災の観点にもつながる。特に若い人には防災がきっかけとなるので改めて意識したい。

（参加者）二人世帯の登録となると、すごい世帯数となるので難しいのではないか。

（参加者）民生委員に任せるだけではだめで、町内みんなで協力すべきではないか。

（参加者）新たなコミュニティーバスが運行となり、釜野地区は不便になった。１日２本では利用できない。データを取ってより利用しやすいように改善を求める。

【まとめ発表】

問題提起を民生委員のかたからいただいた。一人暮らしのかたを町が荼毘に付したとのことだが、いくつの方だったのか。75 歳以上のかたの情報は入るが、それ以下のかたに対しては分からないがそれでよいのか。

・医療情報シート登録者は町内で 860 世帯しかない。
・ゆめクラブに入会していると情報も多く入手できるので、会員増を推進していきたい。
・年齢に関係なく、一人暮らし、日中独居、障がいを持つかたは地区へ登録して欲しいし、そのシステムが大切であると思う。
・各家庭の情報を把握するのに防災面から整備するとより良いのではないか。
・空き家対策も問題であり、知らないうちに施設に入る、転居される、この点を改めるのも高齢者対策の一つとなる。

【意見交換会　高齢者福祉Ｂチーム】

（司会）通いの場については。

（参加者）同じ人、女性が多い。人が集まりすぎると場所が小さい。今後高齢者増加に対応した場所の確保が必要。

（参加者）金をかけられないのは分かるが、地域に丸投げ。来られない人等、今後どうすれば。ボランティアの限界があり、助け合いだけではなくシステムが必要。

（参加者）町は健康普及委員等派遣をなくすが、地域の人では場をうまく進行できない。

（参加者）異なる目的のサロンとミニデイを一緒にした。通いの場はどのような場にしたいのか。方針が分からず今後どうなるのか不明。あるべき姿だせ。

（司会）民生委員として社協については。
（参加者）町は社協に委託、しかし社協と町の情報共有が不十分で、政策や計画に活かせていない。

（参加者）防災無線で徘徊の知らせがある。高齢者に GPS を携帯させるのはどうか。地域の見守りでは限界である。

（司会）恒道会について

（参加者）もとまちの家、定員に対して半分の入所者、経費賄えないのでケアができず事故の危険がある。

（参加者）施設として機能できず、町の対応が必要。所轄官庁の県の対応も必要。

（司会）災害時の要支援は。

（参加者）民生委員と町内会の支援者リストが一致してない。リスト内容では支援に対し情報不足、民生委員ではこれらの情報を掴むのは無理。

（参加者）介護家族へのケア不十分だと感じる。

（参加者）町内の道にベンチがほしい。

（参加者）出された意見をそのままにせず、意見交換の場を増やし、さらに深めたい。

【意見交換会　学校教育】

（参加者）私は日産の技術開発をしている。子どもたちの未来を拓くためのことが大人になっても繋がっていると実感する。子どもの頃から心がけて欲しいことなどがある。そういったことに重点を置いて、キャリア教育を推進してほしいのが私の思い。学校からの情報発信などでいろいろ共有してもらうことも大切。これからコミュニティスクールも始まり、地域ぐるみで子育てを進める取り組みが始まり、それは重要である。学校のホームページや地域参画の形態など、重点的に進めてほしい。

（司会）　議会でも先進地の三鷹等へ行っている。はぐくみ塾という先生方の勉強会では、八王子の学校長からコミュニティスクールの話をしてもらった。コミュニティスクールはいろいろ事例はあるが、地域の特色を生かし、地域にあった形で自由に作っていい。地域で育ちあおうというもの。なかなか見えていないのでイメージだけになりがちだが皆さまからご意見もらいたい。

（議員）　補足するが、学習指導要領が改訂になり法規づけされた。基本的なことに加味して各自治体で自由にやってほしい。地域独自でやっていいとなっている。

（参加者）　もうすこし具体的に聞きたい。

（参加者）　技術開発にしてもそうだが、仕事に対して本当に好きで取り組んでいるのかというのが最後の砦。１つ得意なことを持って、というのが願い。スタートは気づきを得ること。そしてとことんやって１段上がり、次にステップアップできる。気づきとステップアップの繰り返し。私の場合で言えば、ＰＴＡ活動。技術系の講演をよくやっている。山崎直子さんやサイエンスショーなど技術系の話を重点的にやり、きっかけを作った。

（司会）　どこだかは失念したが、商工会全体でキャリア教育をしているところがある。パン屋に行って話を聞くとか。商店主が自分たちの話をきいてもらう。そのうえで社会見学で店舗に来てもらうとか。そういうことが行われている具体事例もある。

（議員）　具体的な仕事の前にキャリア教育として、土壌作りの話だったかと思う。鋭いご意見だった。

（参加者）　子どもはどこに好奇心のスイッチがあるかわからない。だからいろいろな刺激を与えてあげることだ。例えば実験ショーをやった時に、「こういうのが大好き」と言ってきた子がいることに気づいてあげること、吸い上げてあげること、その仕組みが大切。スポーツや文化はあるけど、技術は吸い上げたり引き上げたり仕組みがなく、必要。企業ではさまざまな出張事業がある。食品関係は食育とか。企業の身近な話題から入ってもらうのも手。

（参加者）　学校においては、総時間数というものがあるがどのように取り入れるのか。

（議員）　総合的学習の時間を有効に使う。長期休業中のところを使う、というのでやっているところもある。

（参加者）　今も中学生が体験として施設にいったりとかしているが。一か所だけではなかなか。小学生のうちから必要。夏休みなどで時間を持て余している子もいる。

（参加者）　もっと日常的に機会を増やす。湯水のように刺激を与えてスイッチ押すこと。誰がリードするかというのもある。

（参加者）　中学生はグループで動けるが小学生は自分たちでできない。

（司会）　例えば商店街にあるそれぞれの店や職場に「出入り自由な日」を作って、子どもたちだけで気軽に、楽しく聞きにいくのもよい。

（議員）　そういう時にタブレットがあればすぐできる。ＩＣＴ環境については新学習指導要領で強く打ち出している。部活動としてホームページを作っているところもある。

（参加者）　山西小は畑と料理などもやっている。小５のキャンプも始まる。

（議員）山西小のかまどは、先日のＰＴＡ活動で使用した。豚汁を 100 人分作って、ホットケーキミックスを水で溶いて、ビニール袋に入れて茹でてパンを作ったり、米を炊いたりして、防災食体験をした。

（参加者）　トップダウンではなくて、何かを通して人が集まればアイデアが出る。楽しくなることをすれば活動が活性化してくる。

（参加者）　学校から保護者宛てにボランティアを募るお便りがくるが、それを今度は地域の人にも投げかけてみると良いのでは。

（参加者）　自発的に地域ぐるみでできるのが良い。

（参加者）　学校がオープンだよ、というところを示すと良い。敷居を高くせず。

（参加者）　中学生がお茶会を開いてくれる。子どもたちの発表もある。中学校で豚汁を作るのが決まっている。

（参加者）　正門を開けるのもそうだが、情報の窓も開けて欲しい。特にお父さんかた、卒業生、地域の人、外の人など、協力者を増やすために。門を開けるというと、不審者の問題などを言われることもあるが、開いて人の出入りがあって、みんなが顔見知りになって子どもを守る方法もあれば、完全に閉じて守るというセキュリティーのかけ方もある。

（参加者）　コミュニティスクールの核となるのは評議員。教育委員会としてはどのような権限を与えるのか。教科書選定などもやっているし、学校人事などにも踏み込むと書いているが、権限を与えるのか？

（参加者）　権限は３つあり、校長が作った基本方針を承認する権限と、学校の運営、先生の登用に対して意見を言うことができる、などある。その行使は、評議員として関わっているメンバーに委ねられている。最終決定は校長先生。

（参加者）　諮問機関のようなものか。決定はあくまでも学校長だと。

（議員）　町は評議会委員のメンバーをそのまま移行するというが、それは納得いかない。地域で、学校に意識をもって取り組んでもらえる人に入ってもらうべき。地区長だからと当て職でやるべきではないという意見もある。改めて募集するべき。

（参加者）　うちの子は、来年４年生と１年生になる。学校がオープンであっても、親でさえ用事がある時しか行かない。セキュリティのことを言われると、どう関わればよいのかわからなくなる。学校は親とどのように協力していきたいと思っているのか知りたい。どのような関係を作ってどう子育てするのか、の話し合いがあってもよいかなと思う。

（司会）　旗振りを手伝ってくれてる地域の人の顔を知らない親も多い。薄い関係になっているところもある。２年間ＰＴＡやっているが、保護者も花を育てたり、清掃したりというボランティアにほとんど来ない。保護者は日常で疲弊している。ベルマークを切る役員は仕事を休んできているなど、空気が悪い。いつでも好きな時にできるように仕事を出しておくと、やる人はいる。ＰＴＡ活動を外に開いていくのは大事。

（参加者）　ＰＴＡは仕事が大変でだれがやるの？というのがいつも嫌だ。仕事をしている人からすれば、負担があると思う。皆が順番でやらなきゃ、というより、うまく負担分担ができたり地域の人も関わっていただいて、というのができれば良い。

（参加者）　小学生の親は、勤める人が多くなる。その時に地域のかたが入ることは大事。地域に回覧を回すとかすべき。参加できない状況の親にプリント渡しても無理。

（参加者）　成功体験などとは乖離した組織の現状なんですね。

（議員）　やらされている感があるから、ぱっと集まった時に楽しい雰囲気にしたい。子どもも大人もスイッチ入れたい。　二宮スイッチ！！

（参加者）　私は養護学校に努めている。障がいを持った子のキャリア教育とは？となると限界がある。この子たちのキャリアとは何だろう？と思う。元々のキャリアの意味は生涯という意味。だからこの子たちを幸せにすることだと思う。知的部門もあり、身体は動くが知的障がいの子もいる。お金を稼げる子は良いが、常にドロップアウトしちゃう子もいる。企業にあう子を育成してもその子の幸せにはつながっていないというのもある。学校が選択肢を一つにしてしまっては良くないと思っている。いろんな価値観から、いろいろな分野を目指すというのが基本にあってコミュニティスクールが存在してほしい。

【発表】

　ホームページ、ＰＴＡ活動　コミュニティスクール、という大きな３つの話がでた。コミュニティスクールは順次導入されるが、地域も含めた形のキャリア教育に取り組んでいくことを共有した。具体的な内容もいろいろ出た。小・中学校のうちは、誰がどこに、どのような可能性をもっているか分からないので、チャンスを与えてあげること、スイッチを皆で押

してあげられることが大切。学校の様子をオープンにすることや、地域参画の気持ちをみんなに向けてもらうためにもやはりホームページが必要。ＰＴＡ活動も課題があり、役員のなり手がいないなど。そこに地域のサポートが入ってもらうなど、そういったことも含めてコミュニティスクールにする必要がある。学校を外に開いていくということはしたくても、セキュリティーは関門になるので、地域で子どもを育てる、というのをもっと話し合っていくのが重要ではないか。

二宮町議会　意見交換会　11 月 12 日　ラディアン展示ギャラリー

アンケート集約　参加者 15 名　回答者 7 名　※誤字脱字等、多少の修正はしています

１．何を見て参加されましたか

① チラシを貰った（0 名）　② 掲示板を見た（3 名）　③ 町のホームページ（0 名）
④ 友人知人に聞いた（0 名）　⑤ Fecebook を見た（1 名）
⑥タウンニュースを見た（1 名）
⑦ その他（議会だよりをみた・・・3 名）

２．本日参加してくださったきっかけは

①図書館運営（5 名）　②自主防災（2 名）に興味があった

・その他＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

３．シェアにのみやに対して、ご意見、ご要望等がありましたらお書きください

・工夫されていて良かった。
・決算⇒要望⇒新年度予算化⇒実施、サイクルでの準備を。
・プロジェクターの画面が小さく読めなかった。壁を利用して大きく表示したらどうか。画面を拡大するにはプロジェクターに機能があると思うのでご活用を。
・意見交換の時間がもう少しあってもよかった。貴重な機会だった。
・議員各位の情熱を感じた。
・さまざまな意見交換ができると良いと思った。時間が少なかった。

４．今後取り上げて欲しいテーマや、その他ご自由にお書きください。

・近隣市町との防災組織の広域化への取り組み
・公共施設の再配置計画
・町外からの訪問者にもっと来てもらい、お金を使ってもらう工夫を皆で考える

５．よろしければ性別・ご年代を教えてください。

男女比　男性 4 名、女性 3 名
年齢　30 代 0 名、40 代 0 名、50 代 0 名、60 代 6 名、70 代 1 名、80 代 0 名

二宮町議会　意見交換会　11 月 18 日　地域支援センターそしん
アンケート集約　参加者 20 名　回答者 14 名　※誤字脱字等、多少の修正はしています

１．何を見て参加されましたか

① チラシを貰った（3 名）　② 掲示板を見た（3 名）　③ 町のホームページ（3 名）
④ 友人知人に聞いた（5 名）　⑤ Fecebook を見た（3 名）
⑥タウンニュースを見た（1 名）
⑦ その他（議員から電話があった）

２．本日参加してくださったきっかけは

①高齢者福祉（10 名）　②学校教育（6 名）に興味があった

・その他の意見

町の運営に興味あり。友人からの話で参加。
本当は 12 日の図書館運営の日に参加したかった。

３．シェアにのみやに対して、ご意見、ご要望等がありましたらお書きください

・良いアイデアだった。
・短い時間でしたがボトムアップで様々な意見から学校、地域づくりがあげられたら良いなと思います。このような機会がもっと数多く、もっとカジュアルに参加しやすい形でできたらと思います。
・議員さんから直接の電話をいただきました。ありがとうございました。
・グループ討議の時間が足りないと思います。
・前回出た意見のフィードバックがあった方がよいと思います。町へ伝えたか、町はどう対応したのかなども。
・また次回も楽しみにしている。
・とても有意義な会でした。ありがとうございます。今後もこのような会を続けてほしい。

４．今後取り上げて欲しいテーマや、その他ご自由にお書きください。

・在宅介護をしている家族のケアと、施設入居者（家族）への負担を求めるようになる。（近未来）
・東大跡地、小児病院跡地、いずれも町が購入して何年も経過している。これは地域もそうだが、町職員、町議員等の力不足では。町は職員を中心として知恵を絞って良き案を出せるよう頭を使ってほしい。

・町は（計画策定でワークショップ実施にあたり）「プロのコンサルに依頼している」とのこと。立派な方、優秀な方がたくさんいるのに、どうしてプロに依頼しなければならないのか。出た意見を町（町の議員などが）がまとめれば十分なのではないか。プロの方に今までお金を支払ってよかった点はあるか。
・広域行政への対応。
・議会発信のメールマガジンについて。
・町は本当にお金がないのか、というテーマ。
・学校教育について引き続き、話し合いたい。

５．よろしければ性別・ご年代を教えてください。

男女比　男性８名、女性６名

年齢　30 代 0 名、40 代 2 名、50 代 2 名、60 代 4 名、70 代 3 名、80 代 3 名

「シェアにのみや」反省点
日時：2017 年 11 月 12 日（日）場所：ラディアン展示ギャラリー
参加者〇人

＜開催場所（展示ギャラリー）について＞
・意見交換のテーマが「図書館」で、開催場所が隣の展示ギャラリーなのでとても良かった。
・貼り出した大きなアンケートを取るにも、立ち寄ってもらいやすかった。
・開かれた場所だったので、アピールできたのではないか。

＜チラシ、広報について＞
・高齢者にはチラシのレイアウトが見づらかったのではないか。
・チラシ上で、日付けのアピールが弱かったのではないか。
・駅前のチラシ配布は一定の効果があった。
・意見交換のテーマを 2 種類にしたことによって、関心がある人を呼び込めた。

＜紙のアンケート作り方と記載された内容＞
・意見交換の時間が短いという意見が多かったので、午後にして長時間にしては。
・議会発信のメルマガがほしいという意見があったが、議会の中での広報の在り方も検討すべき。

＜掲示のアンケートについて＞
・町民の参加感はあったと思う。
・設問が読みづらかった。読みやすいレイアウト、文字にすべきだった。
・ハンコではなくてシールにすべきだった。

掲示アンケートの結果・・・

＜決算審査報告について＞
・委員から出した 100 以上の決算審査の要望をすべて書いたものを資料として参加者に出したらどうか。（民生費、防災費、教育費、、、、、などにまとめて書けば良いのではないか、総合計画に紐づける方が良いのではないか）
⇒ 傍聴をしてもらうとか、議事録を読んでもらうとか、議論が伝わるのが大事なのではないか。
⇒ 決算審査時に町に出した要望を、どこまで「シェアにのみや」の資料として出すかは検討。予算決算審査の日程を宣伝して、傍聴に来てもらえるように広報する。町が掲示している議会日程のお知らせに加えてもらえるようにする。

＜意見交換について＞
・時間が短かったと思う。
・今回ぐらいの時間で良いのでは。
・3 月と 9 月は予算決算を説明する関係上、意見交換の時間が短いのは仕方ないのではないか。

・「意見交換の発表」に対する質疑を行う時間を取るのもあり。
・テーマによっては、引き続き、意見交換会を開催し、議論を深めるのは良いと思う。
・意見交換会で出た課題を議会で議論して、検証するべき。
・町民の声から動きを作る役割を議会が担えないか、総合型地域スポーツクラブなどは具現化の 1 つでもあるから、まったくそういう役割を担っていないわけではない。学校、高齢者福祉についてはやっていくべき。
・常任委員会で継続調査として取り上げるべきか話し合う必要がある。

＜その他＞
・「シェアにのみや」の参加者は、ラディアンの駐車場が無料だということをチラシに書いておく。
・展示ギャラリーは議会が使う場合、利用の方法や条件をはっきりしてほしい。
・ホームページを改善すべき＝より広報しやすいように

「シェアにのみや」反省点
日時：2017 年 11 月 18 日（土）場所：地域支援センターそしん

参加者：20 名

＜開催場所について＞
・とても喜んでくださった参加者がいた（雰囲気、そしんの見学もできた）。
・駐車場が広くて良かった。
・そしんが知りたくて来た人がいたのも良かった。
・公共施設ではない場所で開催することで興味を持ってくれる人がいたと思う。

＜チラシ、広報について＞
・議員の電話などの声掛けで来てくださった方がいて良かった。
・釜野地区では回覧板を回してもらったが、早すぎて忘れられてしまった。タイミングが重要。

＜アンケート作り方と記載された内容＞
・「３．シェアにのみやに対して、ご意見、ご要望等がありましたらお書きください」となっているアンケート項目を「シェアにのみやの開催方法に対して、、、、」とする。
・３と４の順番をひっくり返す

＜決算審査報告について＞
12 日と同じなので省略。

＜意見交換について＞
・テーブルを３つにしたのは良かった。（学校教育が 5 人、高齢者福祉 A は 6 人、高齢者福祉 B は 5 人）
・意見を付箋紙に書いてもらうやり方がうまくいったテーブルもあるし、そうでない場合も。高齢者が多かったので、書くやり方は無理があったかもしれない。年代、顔ぶれをみながら、やり方を臨機応変に変えるのが良い。
・B チームはテーマ別に話し合えたので、まとめやすかった。
・最初に名前を言って、雰囲気を作るだけで 5 分。書いてもらうのに 5 分。まとめに 5 分引くと、話し合う時間がやはり短くなってしまう。課題は出てくるけど、その議論まで時間が足りない。
・もう 30 分ぐらい欲しい。
・意見交換会に必要な時間を取るためにどうするか？開始時間を早めにするか。午後にするか。終了時間を伸ばすか検討する。

＜その他＞
・オリーブ茶を出すならその宣伝を。チラシに「試飲できます。オリーブ茶でほっとしませんか？」というような言葉を入れるなど。

平成 28 年度決算報告（担当：決算審査特別委員会委員長　小笠原）

平成 27 年度は村田町長の色が出せなかったが、平成 28 年度は町長初めての予算と言える。

町の予算は第 5 次総合計画に基づいて策定される。総合計画には 3 つの理念がある。まちづくりの力、地域の力、自治体経営の力。まちづくりの方向性として、生活の質の向上と定住人口の確保、環境と風景が息づく町づくり、交通環境と防災対策の向上、戦略的行政運営の 4 つの方向性がある。それに沿って予算が策定され、今回はその決算審査だった。審査意見は 4 日間の委員会の中で各課ごとに出る 100 以上の要望を精査して絞った。

決算審査特別委員会審査意見

1. 独居高齢者・高齢世帯との接点のあり方について研究し、孤立化防止・セーフティネットの確立を図られたい。

身寄りのない方の埋葬などの供養費が計上された。浄源寺の先代の住職が町に勤めていた関係で引き受けている。年間 3 万円支払っている。平成 28 年度亡くなったかたについては本人が町に入院前に連絡をしてきたが、独居の方々の安心を守るためにも、孤独死をなくすためのセーフティーネットの確立を充実してほしい。

2. 図書館運営について、町民のニーズに沿って、開館時間の延長及び開館日数の増を図られたい。

学校の休校日に閉館のことがある。土日は 17 時の閉館では早い。もっと開館日数、時間を増やして、という声があるので要望した。

3. 公共施設再配置・町有地有効活用実施計画策定にあたっては、正確かつ適切な情報を公表されたい。

町が主催で連続開催のワークショップを行った。参加人数は最終的に少なくなった。正確で適切な資料の公表をお願いした。

4.「自主防災組織の手引き」を活用し、町は指導的立場で、各地区防災力の平準化を図られたい。

地域によって充実度に差があるため町が主導し、各地域防災の平準化を図るよう要望した。

5. 学校教育を充実させるために、二宮町独自のキャリア教育を推進し、各学校のホームページを開設するなど、情報発信に努められたい。

地域住民が学校運営に参画するコミュニティースクールも始まるため、ホームページから情報を得られるようにすべし。キャリア教育は、体験型学習の機会にもなる。

6. 各種ワクチンを接種する際には、町民に最新の情報を提供されたい。

ワクチンを打つ人や、打つ人の保護者等が情報をしっかり理解できるように情報提供を望むもの。子宮頸がんワクチンがきっかけとなった。町でもアンケート調査を実施した。副反応含めて丁寧な説明を願いたい。

7. 町職員が心身ともに意欲を持って働けるよう、働き方改革を推進されたい。

平成 27 年度からストレスチェックを行なっている。本人だけに結果がわかるようになっているので、結果は分かりにくいが 17.4%が健康診断の再受診となり、11.4%が高ストレスとのこと。サービス残業も多い。

8. 開かれた消防署を実現するため、消防職員委員会などの見直しを行い、職場環境を改善されたい。

風通しがあまり良くないので、消防職員委員会なども機能的に。消防士はお金をかけて技術を磨いているが、このところ定年前にやめる人がいる。

「二宮町議会基本条例」検証報告

二宮町議会基本条例第２６条に基づき、条例施行よりこれまで、条例の目的が達成され、また正しく運用されているかを、条項ごとに検証を行いました。

議会基本条例推進委員会で検証を行なった結果、ほぼ条項の原則に従い運用は行われ、着実に進めてきているものと判断致しました。

ただし、以下の条項については今後検討すべき点があるということで記載をいたします。

［第３章　議会運営］

（委員会活動）

第８条第２項について　各委員会相互で課題のレベルを合わせることが必要である。

第８条第３項について　評価の仕方については今後、行政への指摘だけではなく、対案を提示することが必要と考える。

（自由討議）

第９条について　以前に比べ、条例施行後は委員会の中での議員間討議ができるようになったが、本会議でも議員間で討議ができるようにしていくことが望ましい。今後の課題として運営の見直しを検討する必要がある。

（政策討議）

第１０条について　さらなる議員の質の向上を目指すことが必要である。

［第４章　町民と議会との関係］

（議会情報の公開及び広報）

第１３条について　本会議や委員会等のインターネット配信、また委員会議事録をホームページで公開することへの検討が必要である。

［第５章　議会と町長等との関係］

（町長等の政策形成過程の説明）

第１８条について　さらに条例に沿って、本会議での質疑や予算また決算議会において活用を図ることが必要である。

［第６章　議会の体制整備］

（議会事務局の機能充実）

第２１条について　議員個々が議会事務局の機能について共通認識を持ち、更に活用していくことが必要である。

（図書資料の充実）

第２２条について　議会図書室の役割について検証が必要である。

（予算の確保）

第２３条について　毎年町へ予算要望をしており、わずかだが実現はしているものの、更に機能充実を図ることが必要である。

以上